

令和4年度 学校評価報告書

小樽市立桜小学校  
校長 水口 正紀

1 本年度の重点目標

おだやかさを土台とした、ひとりだちする子の育成

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	小樽授業づくりの5つのステップ 全教科の実践80%以上	B	研修教科の算数科を中心に全教科へ広げている。着実に実践教科は増えているが、職員評価において、75%の達成率。	○
	特別支援教育の充実	個別の指導計画の作成・活用100%	A	特別支援学級児童全員の指導計画を作成し、個々の目標や状況を通知表へ記載するなど、保護者との連携にも活用している。達成率100%。	◎
	国際理解教育の充実	外国語専科教員による授業公開の実施(年1回以上)	A	今年度は、他校への公開はしていないが、校内における授業研を行った。外国語の加配教員による担任へのフィードバックは常に行っている。	◎
	理数教育の充実	「算数はよくわかる」児童回答85% 「理科はよくわかる」児童回答90%	B	算数は、校内研修を通して、授業の活性化を図っている。4年生以上の理科は専科教員が授業を行うことにより、理解度が高まっている。児童アンケートによる達成率算数81% 理科:90%。	◎
	情報教育の充実	クロームブックの研修及び全学級での有効活用100%	B	クロームブック活用に関するミニ研修を行い、活用の促進を図っている。職員評価において、81%の達成率。	◎
	キャリア教育の充実	キャリアパスポートの作成・活用100%	A	全学年で作成しており、活用もされている。達成率100%	◎
改善方策	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を学習過程に位置づける。そのために、研修を通して、具体的実践を共有したり、校内における授業を交流したりしながら、授業イメージを共有していく。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に繋がるクロームブックの活用法について研修・実践を深めていく。				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムスタートとチャイムストップの評価が3.43は素晴らしい。子どもたちが落ち着いて授業ができてい事は学力にも影響すると思います。</li> <li>・「算数」よくわかる、80パーセント以上なのは、とても良いと思う。</li> </ul>				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	「自分には良いところがある」 児童回答85%以上	B	道徳の授業実践や自己有用感を高めるための教員からの温かい声かけなどにより、自己有用感を高める取組を行っている。児童アンケートによる達成率は78%。	○
	ふるさと教育の充実	ふるさと教育に関する外部講師活用 全学年80%以上	A	3年生以上の社会科や総合的学習において、積極的に地域の外部講師を活用するようにしている。職員評価では、81%の達成率。	◎
	読書活動の推進	朝読書にしっかり取り組んでいる 児童回答85%以上	B	朝の活動の中に、1日を落ち着いてスタートさせる・読む力を高める事を目的として、月・水の10分間を全校朝読書と設定している。児童アンケートによる達成率は80%。	◎
	体験活動の推進	ボランティア活動体験 全学級実施100%	C	全校一斉の校区内清掃活動を予定していたが、コロナにより高学年に依頼した。達成率は、70%。	○
	コミュニケーション能力の育成	言語活動の積極的取組 教師回答90%以上	B	国語を中心に、他教科においても言語活動を積極的に取り入れるように、職員評価に項目として位置づけている。職員評価の達成率は81%。	○
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「友達の良い所をみつける」 児童回答90%以上	B	おだやかな学級づくりをめざし、生活規律の徹底や温かな声かけを実践している。児童アンケートによる達成率は88%。	◎
改善方策	豊かな心の育成のために、おだやかな学校・学級づくりを進めてきた。「時を守り 場を清め 礼を正す」を学校経営の根幹に据え、教職員・児童共に着実に歩みを進め「おだやかさ」は定着してきている。今後は、おだやかさを土台として、「ひとりだち」するための具体策を、日常生活や授業改善において実践していく。				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力を高めることは、社会人として最も大切です。子どもたちがどんな小さな事でも、気持ちを楽にして話し合える環境をつくって欲しい。</li> <li>・コロナが一段落しつつあるので、体験活動の機会も増やせていけるとと思います。読書活動とコミュニケーション能力育成の今後の展開に期待しています。</li> </ul>				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	新体力テストを活用した授業改善 教師回答90%以上	B	全学年で新体力テストを実施し、結果を授業改善に活かすように取り組んでいる。職員評価の達成率は75%	○
		食育の推進	栄養教諭による食育の授業 全学級実施100%	A	栄養教諭による食育の授業を全学級で進めている。達成率は100%。	◎
		健康教育の充実	薬物乱用防止教室、エビペン・AED 研修各年1回実施	B	エビペンを持参している児童がおり、食物アレルギーとエビペンの研修は4月早々に実施している。薬物防止教室は、2学期実施予定だったが、コロナによる学級閉鎖のため、未実施。	◎
改善方針		コロナ禍ではあったが、グラウンドや体育館での遊びの奨励や運動量を確保した体育の授業改善などにより、児童の体力・運動能力向上への取組を進めてきた。令和5年度は、体力向上プランについて改めて全教職員で共有し、体育の授業改善などの共通実践を進めていく。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>「朝ご飯毎日食べています」評価1が21人、気になりました。各家庭の指導はしているのでしょうか？コロナの中なのか？ゲーム動画の時間が多いのにびっくりしました。</li> <li>運動能力低下は、ちょっとした事故にもつながるので今後の改善策が必要。</li> <li>小学校時に基礎体力を身につけることは、生涯にわたって重要だと思う。</li> </ul>				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	家庭学習強化週間を年3回設定	A	学期に一回ずつ、桜町中学校と連携して設定している。全学年で学力テストにつながるような文章問題を週末課題として設定し、土日にじっくりと考えてくようにした。予定通り、年3回を実施。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	CS導入に向けた校内学習会の実施 (年1回以上)	B	令和6年度CSスタートに向け、3学期にCSの校内学習会を実施した。	◎
改善方針		家庭学習や安全に関わる学校と家庭の連携がここ数年で進んでいる。さらに、PTAとの連携を強め、地域・保護者による見回りなど、安全に関する取組を強化していく。学校だより、学級だよりなどの発信と併せ、安心メールと学校ホームページを更に充実させていく。また、令和6年度に桜町中と合同でCSをスタートできるように、話し合いの場を設定する。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の家庭の連携も大切ですが、PTAとの連携を強めると大きな力になると思います。</li> <li>桜町中との合同CS、実現して欲しい。</li> </ul>				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中一貫教育の充実 教師回答85%	B	グラウンドデザインを作成し、「ひとりだち」を共通目標と設定し、企画部会の内容を全職員で共有している。職員評価による達成率は、79%	◎
		教育環境の整備・充実	教室・廊下・空き教室等の環境整備 教師回答90%以上	B	「場を清める」ことを大切に、教師が率先して、教室・廊下・空き教室の環境整備を進めている。職員評価による達成率は、82%	◎
		教職員の資質・能力の向上	校内研修の充実と公開研究会の開催 (9月に開催予定)	A	算数科の研修を通して児童が主体となる学びの実現を目指している。桜町中と望洋台小を対象とした公開研究会を9月に実施した。	◎
		学校運営の改善	「働き方改革が進んだ」 教師回答80%以上	B	働きがいのある職場作りをめざし、全ての教育活動に働き方改革の視点を取り入れながら進めている。職員による達成率は、75%。	◎
		学校安全教育の充実	防犯教室及び防犯訓練の実施 (年1回)	A	警察署に依頼して、低学年・高学年と内容を分けて、校内のライブ放送により実施した。	◎
改善方針		小中一貫教育については、グラウンドデザインを作成し「ひとりだち」を共通目標と設定して進めている。令和4年度は、「一歩進める一貫教育」をテーマとして、職員間の共有を進めてきた。令和5年度は、「ひとりだち」へ向けた実践を増やしていく。働き方改革については、スクラップ&ビルドの観点から、再度、教育内容について精選を進める。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中、働きがいのある職場を推進するのは大変そうですが、環境整備、研究会、安全教育と前向きに進めている様子、今後楽しみです。</li> <li>校長先生はじめ、教職員の皆様には、世間も家庭もいろいろなので、大変だろうと思っています。</li> </ul>				
社会教育に関連する目標 (目標6～8)			高島プール、総合博物館をそれぞれ年1回以上利活用	B	今年度もプールは中止。総合博物館は利用することが出来た。	○
改善方針		コロナ禍で社会教育の利用・活用が制限されているが、今年度は状況により利用できる施設が増えたので、積極的に活用してきた。コロナ禍で人とのつながりの大切さを痛感してきているので、地域から学ぶ・地域とつながることを大切に、これからは、今まで以上に積極的に社会教育施設を活用していく。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中、不自由な学校生活の中、教師が命と向き合いながら、後退ではなく前進している様子を、さらに頑張ってください。</li> <li>コロナ禍前のような活動ができることを願っています。</li> </ul>				